

令和3年度 学校評価(自己評価・年度末) 北海道滝川高等学校定時制課程

領域	番号	目標	本年度の具体的方策	評価 平均	分掌 平均	取組評価				達成度評価			Cの 総数	令和2年度	
						4の 個数	3の 個数	2の 個数	1の 個数	Aの 個数	Bの 個数	Cの 個数		年度末評 価 Cの個数	年度 末 分掌 平均
組織運営	1		「学校教育目標」は、教育活動全体の指針として適切か。	3.3	3.4	3	6	0	0	5	3	0	0	1	3.2
	2		信頼される学校づくりを推進することができているか。	3.3		3	6	0	0	4	4	0			
	3		校務分掌や各係、委員会は適切に組織され機能しているか。	3.2		3	5	1	0	4	4	0			
	4		教職員の相互理解のもと、協働する組織体として機能できているか。	3.3		3	6	0	0	4	4	0			
	5		教職員としての専門性を向上するための研修体制は充実しているか。	3.2		2	7	0	0	3	5	0			
	6		休暇や休養日の取得など、教職員の働き方や、健康管理、福利厚生について配慮された職場環境となっているか。	3.9		8	1	0	0	4	4	0			
管理職	1	効率的な校務処理と組織運営の促進	各分掌、学年、係との連絡調整に努め、学校運営の円滑化に資することができているか。	3.3	3.0	3	6	0	0	3	5	0	0	5	3.1
	2	特別支援教育体制の充実	特別な支援が必要な生徒に対しての指導体制を整える。	2.8		0	7	2	0	1	7	0			
	3	入学者増に向けた取り組みの充実	保護者や近隣の中学校に対し、本校の教育活動について周知できているか。	2.9		0	8	1	0	2	6	0			
	4	校内ネットワーク環境の整備・充実	適切な文書管理や、そのための校内LAN活用の促進と機器整備を実現できているか。	3.0		0	9	0	0	3	5	0			
総務・進路指導部	1	機能的な学校運営を図る。	各分掌や全日制と連絡調整に努め、行事を円滑に実施するよう努める。	3.3	3.2	3	6	0	0	2	6	0	2	4	3.0
	2		教頭と協力し、円滑な職員会議の運営に努める。	3.6		5	4	0	0	3	5	0			
	3	自己理解を深めさせ、進路実現に向けて意欲をもたせる。	進路講話等で、自己理解し、自己決定能力を高めさせる。	3.4		3	5	0	0	1	6	1			
	4		「進路通信」を発行し、日頃の指導の中でも生徒に呼びかける。	3.0		2	4	2	0	3	4	0			
	5		生活体験発表の取り組みを通して自分の成長・変化を理解させる。	3.1		3	4	2	0	4	4	0			
	6		「進路のしおり」を活用し、キャリア教育の充実を図る。	3.0		2	5	2	0	2	6	0			
	7	個に応じた進路情報の提供及びキャリア教育の推進を図る。	在学期間中のキャリアパスポートの活用を促進する。	2.8		1	5	3	0	1	7	0			
	8		主に長期休業を活用してのインターンシップを実施する。	2.7		1	3	1	1	2	3	0			
	9		ハローワークと連携し、生徒に適合する就職先の開拓に努める。	3.2		2	7	0	0	2	6	0			
	10		学資金、奨学金・教育ローンを有効活用できるよう情報提供に努める。	3.3		3	4	1	0	3	4	1			
	11	その他	P T A ・定通教育振興会と連携関係を取るように努める。	3.3		3	6	0	0	1	7	0			
	12		広報「まほろば」・学校HPを活用し、保護者や地域住民への情報提供に努める。学校HPの充実を図り、生徒募集に努める。	3.3		3	6	0	0	3	5	0			
	13		給食を通して食に関する指導を行う。	3.2		3	5	1	0	1	7	0			
教務部	1	教育課程の編成と改善の研究を図る。	新学習指導要領に向けて理解を深める。	3.0	3.1	0	9	0	0	2	6	0	1	5	3.1
	2		三修制の在り方について研修を行う。	3.1		2	4	1	0	3	4	1			
	3	個に応じた基礎学力の定着を図る。	基礎学力講座を実施し、個々の基礎学力を確立する。	2.9		1	6	2	0	1	7	0			
	4		定期考査前の学習会を充実させ、生徒が参加しやすい環境を作る。	3.0		2	5	2	0	2	6	0			
	5		年度初めと年度終わりに学力テストを実施し、1年間の学力を見えるかする。	3.1		2	5	1	0	3	5	0			
	6	学習指導の工夫、改善を図る。	「学習の評価表」をデータ化し、授業改善の基礎資料とする。	3.0		3	3	3	0	2	6	0			
	7		公開授業週間を実施し、研修を深め授業改善を行う。	3.2		2	7	0	0	4	4	0			
	8		時間割の編成に柔軟性を持たせることで、生徒の実態に合わせた授業展開の工夫を行う。	3.2		3	5	1	0	2	6	0			
生徒指導部	1	基本的生活習慣の確立とあいさつの励行	命や人権を尊重し、思いやりある行動ができる生徒を育成する。	3.2	3.1	2	7	0	0	2	6	0	1	2	3.1
	2		ルールを守った行動ができるように指導する。	3.1		1	8	0	0	2	6	0			
	3		あいさつや言葉遣い、礼儀作法の指導を継続する。	3.0		0	9	0	0	1	7	0			
	4	教育相談の充実といじめ防止の取組	日頃より生徒とのコミュニケーションを大切にし、生徒理解に努める。	3.4		4	5	0	0	2	6	0			
	5		特別支援教育について理解を深め、不登校や特別な支援を必要とする生徒への指導を行う。	2.9		1	6	2	0	0	8	0			
	6		日常の生徒観察や情報交換を密にし、いじめのない集団をつくる。	3.2		2	7	0	0	1	7	0			
	7	保護者および関係機関との連携	保護者や関係機関との情報交換を適切に行い、組織的な生徒指導を行う。	2.9		0	8	1	0	0	7	1			
	8	生徒会活動の活発化と積極的な取組	生徒の主体性を生かし、一人一人が積極的に取り組める生徒会活動を推進する。	2.8		0	7	2	0	0	8	0			
各教科	1		シラバスに基づいた指導・評価が実施されているか。	2.9	3.0	1	6	2	0	0	8	0	0	1	3.1
	2		生徒に関心・意欲を持たせる、単元毎の工夫ができているか。	3.1		1	8	0	0	0	8	0			
	3		生徒の理解を定着させる授業づくりができているか。	3.0		1	7	1	0	1	7	0			
	4		他教科との関連をふまえた指導ができているか。	2.9		1	6	2	0	2	6	0			
	5		言語活動を意識した授業づくりができているか。	3.0		0	9	0	0	1	7	0			
	6		授業における指導と評価の一体化を実現できているか。	3.0		0	9	0	0	1	7	0			
				3.1		88	271	36	1	93	259	4			